

開いて花 雨音楽し 淀江傘

淀江傘二〇〇年記念企画展

200本の傘を一同に展示するほか、傘踊りの公演や製作実演、歴史や受け継がれた技術など、淀江傘の魅力を伝えます。

淀江傘の歴史

淀江傘の起こりは文政4年(1821)に倉吉から淀江に来た倉吉屋周蔵が傘屋を開いたことによると言われています。明治14年(1881)に津山の西金蔵が傘製造の指導に招かれたのが契機となり、淀江傘の製作は飛躍的に発展しました。

大正時代には製造業者71軒年間生産量は17万本にも達し、淀江を代表とする産業となりました。

戦後は洋傘が普及し、昭和59年(1984)に最後の製造者が廃業となりましたが、淀江傘伝承の会に技術が引き継がれ、全国に送り出されています。

現在はインテリア用としても注目され、需要が高まっています。

令和3年

10月20日(水) - 25日(月)

会場 米子しんまち天満屋1階 しんまち広場

[米子市西福原2丁目1-10]

時間 10:00開場 - 19:30閉場 [25日(月)は16:00まで]

記念式典

令和3年 10月23日(土)

[時間] 11:00~

●傘踊り公演(米子白鳳高校郷土芸能部)

●和傘製作実演(淀江傘伝承の会)